

## 例5： 「日本人新入生との会話」

会話活動

上級

中等プログラム 5年

| 基準    | A | B | C | D | E |
|-------|---|---|---|---|---|
| 得たレベル | 4 | 4 | - | - | - |

### 背景

- 生徒は状況が書かれたカードを与えられている。生徒は日本語教師助手と積極的に会話を進めなければならない。生徒は選んだカードを基に与えられた2分の時間を使って考えをまとめるが、メモを含め、いかなる形の書き物を持って会話に望んではならない。返答を考える時間は（録音用の）マイクを相手に渡す時間だけである。日本語教師助手は日本人新入生の役をしている。これは評価する生徒を容易に判断でき、会話をうまく進めることができるようにするためである。会話をどのように進め、終わらせるかは生徒各自の責任であり、会話の長さも含める情報量は（3分間から5分間という条件内で）生徒の自由裁量に任せてある。
- 評価される生徒及び教師のみが教室に残り他の生徒は教室外に退出している。これは雑音と外部からの干渉を最小限に留めるためである。
- この課題は基準 A 及び基準 Bに対して評価してある。

### 評価

#### 基準A 内容と情報交換

最高レベル8

この作品がレベル4を得た理由は以下の通りである。

- 基本的な情報の交換はゆとりを持って行なっているが比較的複雑な情報交換は試みていない。
- テーマに沿わない意見を述べている時もある。
- 見解のつながりに途切れがあるものの内容と情報交換の流れを妨げるほどではない。
- 会話に参加している。
- （生徒の）応答と反応から判断して、ある程度課題を理解していることが分かるが、会話の一部は表面的な応対である。

以下の項目が習得できていれば、同生徒はより高いレベルに達したと思われる。

- 複雑な情報をもっと加える。
- 会話をもっと長く続かせる。提示された会話はかなり短いものである。
- 語彙、文法の正確度を上げる。
- 会話全体を十分に理解する。

## 基準B 表現と言語使用

### 最高レベル8

この作品がレベル4を得た理由は以下の通りである。

- 抑揚に時折誤りが見られ、会話の流れにつまずきがある。
- 基礎文法にいくつかの誤りが見られ、かつ、複雑な文法事項を試みていない。
- 言葉遣いは適切である。

以下の項目が習得できていれば、同生徒はより高いレベルに達したと思われる。

- より多くの語彙を用いる。
- より多くの複雑な文法を用いる。
- 慣用句をもっと多く用いる。